

チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

通信

CHALLENGE
COMMUNITY
CLUB Ccc

第33号

2016.6 vol.33



明治学院大学アンネのバラ



9期生修了式



9期生修了式

CONTENTS ■ ぐあいさつ

港区長

武井 雅昭

明治学院大学 学長

松原 康雄

CCクラブ 世話人代表

斎藤 正精

■ 2016年度CCクラブ新体制の紹介

■ 学ぶ喜びと出会いをありがとう!

～9期生から寄せられた声～

■ 運営委員会報告・活動計画

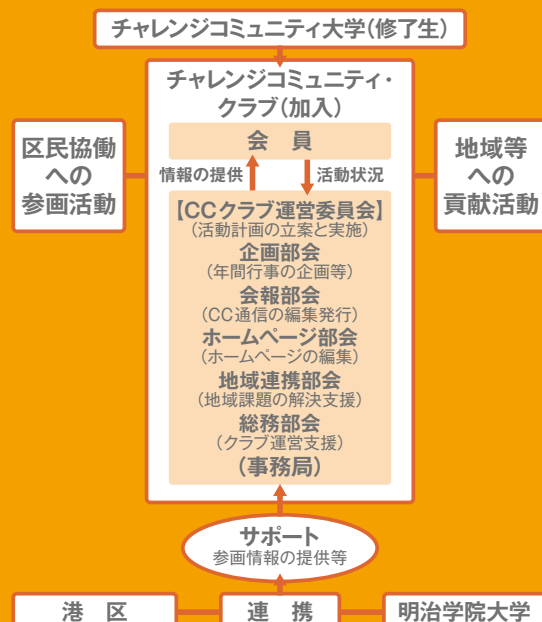
チャレンジコミュニティ通信は、 地域活動推進の情報を提供します

港区は、2007年の4月に地域活動のリーダーを養成することを目的として、明治学院大学との連携により、チャレンジコミュニティ大学を開設しました。この大学は港区在住の60歳を超えた高齢者を対象に夫々がこれまで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて個々の能力を再開発することを目指して創設されました。

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ(略称CCクラブ)が創設されました。この大学で学んだ知識を活用し、地域課題の解決に向け、会員が地域活動を推進することを目的としています。このクラブは地域活動のリーダーを育て、港区のまちづくりや地域ネットワークの構築を進め、併せて各人の資質の向上をはかっていきます。

この目的に沿って、主にクラブ会員を対象に地域活動推進の情報提供や活動状況を紹介するため、チャレンジコミュニティ通信を発行しています。

港区からは、区民参画、協働への推進等に関する情報、また地域社会活性化への貢献に資する団体、機関等への参加、NPOやボランティア団体等への参加、地域防災組織等地域の安全・安心活動への参加等、多岐に亘る情報提供を得ていきます。また会員相互の情報としては各団体等での会員の活躍状況や、クラブ企画の講演会・講習会、施設見学会の開催案内等を紹介していきます。本年もこの通信は会員皆様にとって役立つ情報を発信し、また皆様からも活発なご意見や情報を頂きながら、より充実した内容を目指していきたくと考えています。



「チャレンジコミュニティ・クラブ」 第9期生の皆さんへ

■港区長 武井 雅昭



チャレンジコミュニティ・クラブは、発足してから今年で9年目を迎えます。皆さんがチャレンジコミュニティ大学を修了し、地域貢献活動に熱意と意欲を抱かれ、第9期生として、チャレンジコミュニティ・クラブに入会されましたことを、心よりお祝い申し上げます。

チャレンジコミュニティ・クラブの会員の皆さんの活動は、区民参画による検討会や各総合支所の協働事業、更には、ボランティアグループ等の地域福祉活動にも及び、地域社会において多方面でご活躍いただいております。

このような皆さんの前向きな姿勢に対しまして、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

近年、人々の価値観やライフスタイルが多様化し、家庭環境や地域における人と人とのつながりも大きく変容しています。こうした中、地域コミュニティの重要な担い手である町会、自治会では会員数の減少や高齢化が進み、会の活動への参加が低調になるなど、活動の担い手不足が課題となっています。こうした方面においても、是非、チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんに活躍していただくことを期待しております。

港区は、「区民に信頼され、より身近にあり、区民の誇りを創造する区政」の実現を目指し、平成18年4月に「区役所・支所改革」を実行してから10年がたちました。今後も「参画と協働」により築いてきた区民や地域との強い信頼関係のもと、活力と魅力に溢れ、多様な人や文化が共生する「区民一人ひとりが誇りに思える成熟した国際都市」の実現に向け、地域の課題解決を図ってまいります。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんには、今後も、地域コミュニティの育成や地域の活性化への活動を推進するリーダーとして、地域の課題解決にご活躍いただけることを念願しております。

チャレンジコミュニティ・クラブの今後益々の発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

CCクラブの皆様、9期生の皆様へ

■明治学院大学学長 松原 康雄

チャレンジコミュニティ大学での一年間は、白金キャンパスを中心として実施されています。このキャンパスにある礼拝堂は今年献堂100周年を迎えます。設計者は日本で多くの西洋建築を手掛けたウィリアム・メレル・ヴォーリズ



(William Merrell Vories) で、彼自身もこの礼拝堂で結婚式をあげています。妻は子爵家の娘一柳満喜子であり、3月までのNHK朝ドラ「あさが来た」の主人公「白岡あさ」(本名広岡浅子)は親族のひとりでした。歴史的建造物もそこに人々の「物語」あってこそ、歴史を紡ぐことができます。9期生の方々は、明治学院大学とチャレンジコミュニティ大学の営みのなかで一人として新たな歴史を紡がれていくことになると思います。また、CCクラブの皆様はすでにその環のなかに確固たる存在を示されてきています。

9期生の皆様は、多様な授業のなかで現代社会が直面する多様な課題についても学ばれてきたと思います。また、CCクラブの皆様は日ごろの活動から様々な課題に気づかれています。地域のなかにも存在する大学とCCクラブの皆様でそれらについて考え、課題に取り組んでいくことも必要であると感じています。9期生の方々にも是非CCクラブの活動の活性化の一端を担っていただければ幸いです。

大学は教育研究に加えて、地域貢献の面でも積極的役割を果たすことが求められています。この役割を果たすことにとって、チャレンジコミュニティ大学は本学にとっても欠かすことのできない事業であり、連携をさせていただいている港区にも感謝するところです。加えて、卒業生の組織であるCCクラブは、大学の社会的貢献のすそ野を広げてくださるものとなっています。実際の活動が歴史を紡ぎ、大きな流れになっていくことでしょう。皆さんは、まさにその主役であると思います。大学も皆様の活動を支援しながら、皆様と手を携えながら、自らも主体的に地域にかかわり、皆さんとともに港区を誰もが住みやすい街、孤立を廃絶し、絆を深めていく街にしていきたいと考えています。

CCクラブ9期生を迎えて

■CCクラブ世話人代表 斎藤 正精(6期)

CC大学を修了しCCクラブの運営部門で活動を始めてから既に3年が過ぎました。この間、多くの会員の方々と出会い、活動の一端を見聞き出来たことは大変貴重な体験になりました。新年度のクラブ運営にあたってはこの経験を生かして、CCクラブを更に活性化し、継続的に発展させていきたいと考えています。



運営委員を通じて一貫して感じてきたことは、委員会や部会活動に参加経験のない方々に運営の様子を伝え、意義や実情をご理解いただくことの難しさです。会報・ホームページや年数回のイベントだけではなかなか様子が伝わらないのは仕方のないことで、委員会の活動が会員の皆様と遊離しているのではないかとという危機感もありました。何とか全員参加型のクラブ運営を実現できないかと思い、旧年度はCCクラブを考える会を設置して、クラブの在り方や運営体制について多くの皆様と討議を重ねました。その一環で、昨年12月から会員の皆様への一斉メールを開始しました。運営委員会議事録やイベントのご案内などの連絡メールを開始した結果、会員の皆様から直接コメントや返信をいただき、「伝えるという観点」でかなりの効果がありました。また、規約改定については、3月の運営委員会で近く開催予定のクラブ総会の議案とすることが承認されました。新年度からは総務部会を設置し総会の準備などの活動を始め、考える会の提言をベースに運用体制が整備されつつあります。

今年の活動方針は、従来から継続しているイベント開催をできるだけ対外的にオープンにして地域社会へ情報を広く発信し、CCクラブの活動を理解していただくこと、クラブ運営基盤を更に強化して組織的に活動することや、個人やグループを相互に連携することにより絆や地縁を深めていくことを念頭に置きます。今年度はCC大学の10周年記念にあたり、クラブとしてもこの機会に積極的に記念事業に協働・参画し、大いに盛り上げていきたいです。

会員皆様のご協力を期待します。

2016年度CCクラブ新体制の紹介

副代表

丸山 保夫（7期）

皆さんこんにちは。既にご存知の事と思いますが、CC大学の10期生の授業が始まりました。修了生の集まる私達CCクラブも9期生を迎えて500名強の大きな団体になりました。仲間が増えるのは素晴らしいことですが、一方沢山の人が集まると、いわゆる組織運営もしっかり進めていかなくてはなりません。その対応の手始めとして今回運営規約を変更し、これも初めての試みですが総会を開催して、皆さんの意見を直接反映させる機会を作ります。また器の整備だけではなく、メンバーが行う地域活動の充実を図りたいと思います。その為にもぜひ皆様方のご意見やお考えをお知らせください。

今年はCC大学の10周年に合わせて、CCクラブも10周年記念事業を行います。運営委員や部会員の皆様には、これから一年間さまざまな活動をして頂きますが、クラブの運営にはきっとメンバーの皆様も活躍できる場があるはずです。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

企画部会

丸山 保夫（7期）

今年は7月のホームカミングディと同時にCCクラブの総会を行う事になりました。総会では昨年度の活動報告や今年度の計画の話があります。後半部分は講演会の開催を考えています。また12月にはCC大学10周年記念シンポジウム（仮称）がおこなわれますので、例年行っていた2月の活動報告会は行いません。一方、20名から50名程度が参加できるイベントを充実させたいと考えています。

CCクラブの主な活動領域は地域や介護予防、福祉といった分野ですが、私たちのクラブの皆様が仲間として集い、学び、遊び、互いに啓発しあう事も大変大事なことでと考えています。このような集まりは各グルー

プでも行っているとは思いますが、他の期やグループの方と知り合い、情報交換をしたり、活動を紹介するなど必要な事です。このような機会の提供もできるよう参加しやすいイベントを企画していく予定です。シニア世代の我々が心身の健康を維持するためにも、好奇心や探究心を刺激する企画ができればいいなと、部会の中で話し合っています。

皆様の笑顔がみられるよう楽しい企画を検討中ですので、ご期待ください。



地域連携部会

野村 知義（8期）

本年度については、港区、明治学院大学（学生を含む）はじめ関係部署と連携・協働してCCクラブ会員による地域活動をさらに推進できるよう支援して行きたいと考えております。特に各地域CCクラブの活動実態が共有できる地区CC会議を4回開催して交流を深め、情報共有を図ります。自主的な活動取材し、クローズアップCCで情報を発信致します。CCクラブの活動については、「このゆび、と〜まれ」により外に向け広く情報を発信します。CC大学創立・CCクラブ創設10周年記念行事については、まずは会員が楽しめ、多くの方々も楽しめる有意義な行事を部会横断的に企画し実施して行きたいと考えております。

部会としての活動を円滑にするため、IT機器の操作に慣れる、区外の活動団体を訪問するなど、知見を



広めて行きたいと考えております。緩やかに楽しく活動を進めましょう。

ホームページ部会

峯崎 恵紀（7期）

ホームページ部会長2年目になりました。他の部会長の皆さんと一緒に、この一年間「CCクラブを考える会」にかかわって、時代の流れに沿ったCCクラブのあり方を探っていき、組織の見直しと総会の実施、規約改正にまでたどり着くことが出来ました。

会員数が増加する中、タイムリーに情報伝達をするうえでは、新設されたグループメールやホームページの活用を、一層押し進めていく必要があります。

昨年は一般向けの記事を画像の一覧表で見やすく改定するとともに、投稿マニュアルを作成してまず部員が自ら投稿できるように進めてきました。

今年は部員が8名に増えましたので、記事のアップを分担してより頻繁に行うと共に、一般の会員の方でも容易に投稿できるように、マニュアルの充実と会員の皆さまへのIT講習会など、より皆様にとって身近なホームページとなる様に取り組んでいます。

皆さまのご協力を宜しくお願い致します。



会報部会

太田 則義（7期）

今年度は、初参加4名プラス経験者2名の合計6名の正部員と昨年度経験した協力部員3名でスタートしました。昨年度との大きな違いは発行回数の減少です。発行時から年間4回のペースで刊行してきましたが、今年度から年間2回になります。これにより、CC通信のあり方、内容にも変化が出てきます。現在、会報部会でも検討していますが、皆様からのご意見もいた

だきたいと思います。

CC通信の役割りは情報伝達、活動記録など様々なことがあると思いますが、昨年度より機能も減少します。情報伝達については、もう一つの手段としてのホームページに役割の多くを担っていただきたいと思います。今年度も掲載ページが少ないですが、会員の活動紹介のページも作りたいと考えています。



総務部会

秋元 宏（8期）

2016年4月より新しく設立された部会で、部会員は4名です（メンバー募集中）。

初年度の課題は名簿の整備、一斉通信の体制整備、運営委員会の運営支援、総会の開催支援などです。初めてのことばかりなので試行錯誤の連続ですが、一つ一つ形にしていきたいと思います。

私たちは必要な情報を会員と関係者の皆様にタイムリーに提供することを通して、会員の皆様がCCクラブの活動をより身近なものと感じ、活動に参加したり、共に楽しんだりできるよう、少しでもお役に立ちたいと考えています。

また、部会員にとって参加してよかったと思える部会にしたいですし、地道な作業の連続の中で「楽しめる要素」も取り入れていきたいと考えています。

ご興味のある方のご参加をお待ちしています。



学ぶ喜びと出会いをありがとう！

～9期生から寄せられた声～

60歳以上を相手にどんな授業かと、あまり期待していませんでしたが、講義も幅広く、講師の方々も一生懸命で感激しました。本当を言えば、もう一年、落第したいと思ったくらいです。座学の際は3クラス60名が一緒なので、同じクラスの人を認識し、名前を覚えたのは、修了も近づいたころでした。もう少し早くから、クラスの仲間意識が育まれていたら、もっとチームワークが出来たかもしれません。

S. M.



入学式（白金校舎アートホール）

久しぶりの継続一年間授業で、学ぶ楽しさを改めて味わえました。全員の方が初めてのお顔、どうなるか見えないままに走り始めた感がありましたが無事修了し、満足感があります。宿泊研修は、お互いをよく知りあえる機会でした。もう少し早い時期に実施されていれば、よりよいグループのまとまりや、よりスムーズな新しいお付き合いの始まりが出来たのではと思いました。

山根 洋子

一年間様々なことを学ばせていただきました。特に社会福祉関係の講義が充実していて、入学前から漠然と考えていた事柄について頭の整理ができました。感想は幾つかありますが、一番強く思った事は、CC大学の趣旨が『地域コミュニティのリーダー育成』ですから講義を聞くだけではな

く、実践につながる授業、例えばスタートして少し時間が経った頃ミーティングを行い、いくつかのテーマを抽出し、チームを作り、検討し具体的なアクションプランを作成し、修了後はプランの実践のようなプログラムがあっても良いのではないかと思います。

N. R.

2015年CC大学に9期生として入学出来ました事を大変嬉しく思っています。あっという間の一年でした。今は出かける所がなく、寂しい毎日を送っています。色々と講義を拝聴しましたが、その時はこんなお手伝い出来るかなとか考えるのですが、積極的に行動に移すすべを知らないと言うことだと思います。又、今回の授業を受けて知ったことは、障がい者並びにDVで困っている方たち、その他生活困窮者の施設が多く、色々な事を知る機会にもなりました。しかし、本当に困っている方々がその様な施設があることをご承知していないと思いました。

廣川 裕紀子

CC大学9期生として学んだ一年間は、多方面にわたる授業で多くを学べ、心から感謝しております。

昨今、認知症の問題が多く取上げられる中、新しい方々との交流、学び、適度な緊張感の一年間そのものが認知症予防になっていると思いました。若干残念に思う事は、9期生全体の横の繋がりが皆無に近く、最後まで名前も存じ上げない方々が殆どだと感じるというのが多くの共通の声でした。記念写真撮影が多々ありましたが、手元に一枚も無く少し残念に思いました。

M. O.

早いものでCC大学9期生の修了式から一ヶ月が過ぎました。当初は、もう、あの授業を受けられないと思うと残念で放心状態でした。毎回どの授業も充実して、一言で表すと「楽しかった」で

しょうか。

今後はCCクラブに入れて頂き、多少なりとも地域のお役に立つことを見つけていきたいと思っています。

高村 資子

良い経験となり、とても楽しい一年間でした。年齢差がありましたが、それが良い刺激となりました。何が出来るか、前向きに考える様になりました。

武石 恵子

私はいろいろな事を学びました。体育、政治、経済、福祉の教授と沢山のお話しが出来ました。皆勤賞をいただけるくらい大学生活が充実していました。お友達もできて、美術館に行き一緒に食事をして、教授と外のバルコニーで写真を撮りました。宿泊研修に行き友達三人と一緒に、雪が降ってベッドで楽しく過ごしました。お風呂も一緒に入って背中を流していただいたので流してあげました。受付の担当の方や、係の方などとても親切にさせていただいて、港区の区長さん始め多くの方にお世話になり大変感謝しています。

勝谷 榮子

CC大学では専門の先生方から、幅広い分野の講義を受けることが出来感謝します。音楽の授業は楽しく、日本文学・世界の文学では、若い学生の感じ方と私達の感じ方の差を知りました。社会福祉で、貧困家庭や生活保護のことも現状を知りました。私は秋ごろ外で転倒して欠席を数回しましたが、これからは地域活動に参加していきたいです。

N. A.

民生委員・児童委員の先輩から勧められ、不安と期待に胸膨らませCC大学に入学しました。学ぶ事の喜びと楽しさを十分に味わう事ができ、あっという間の一年間でした。教室のたくさんの方々との交流、ふれあいも楽しいものでした。ただ、90分の講義は慣れなくて辛かったです。今後は、大学で学んだ知識や経験を少しでも地域に貢献できる様、日々努力していきたいと思っています。

堀野 美千子

長い様で短い一年間でした。机に座って講義を受けるのは 私にとっては学生以来のことです。錆び付いた頭も少し働いたと思っています。それ以外にも美術館に行った事、スポーツ実習等とても充実した期間でした。

何かボランティアをと考え、今まで趣味でしていた自分のお稽古事を、今老人ホームで実践しています。皆様楽しんでくれている様で私も嬉しいです。

KEI

大学で人文・社会系科目の基礎を網羅的に聴講するのは63年ぶりだった。当時は高名な先生方が、定刻より10分程遅れて教室に現れ、学生の興味と理解度に関係なく一方的に講義していた。CC大学の先生方は時間いっぱい掛けて、社会福祉、行政など身近な問題を懇切丁寧に授業された。

これからはこれを生かして地域貢献活動を始めねばならない。理科・環境のアクティブ・ラーニングに適した中高生向けの教材を作り、デジタル紙芝居として港区の「子ども中高生プラザ」巡りから始めようかと準備を始めている。2月のCCクラブ活動報告会で、河合克義先生に「世代を縦につなぐボランティア活動」も重要であると仰って頂き、大いに力づけられた。

岩村 秀

最初、CC大学入学が決まった時、90分2コマの授業についていけるか心配でした。でも、始めると先生方の講義も興味深く、何より今まで曖昧に覚えていたことが明確になりました。河合先生もおっしゃっていましたが、せっかくの大学での講義ですので、学生との交流ができるコマが出来たら良いのと思いました。

八田 良子

専門分野の先生方による熱い想いの伝わる授業に驚きました。内容は濃く広い視野が新鮮でした。得た知識と人脈は財産です。これからの人生に不安はなくなり、安心感を得ることが出来ました。地域の中で得た知識を伝え、仲間と楽しく過ごします。至福の時間を港区に感謝します。ありがとうございました。

清水 由紀子

一年間学んで、港区の現在、そして未来が少しわかってきました。これまで広報誌などで読んでいても、他人事として関心を持たなかったことでも大切な事が多い事がわかりました。殊に、防災に関しては、集合住宅が多く、高齢者が多い港区では、知識と多くの情報を持たねばならないと思いました。

H. N.

CC大学への通学は、アカデミックな雰囲気の中で毎回興味深く楽しい授業の受講となりました。地域活動する中で、行政や地域のことに関心が薄かったことに気づかされました。点が線となり面となって、立体的に見えてくる学びの場ともなりました。日常の暮らしの中で地域活動に心を向けて、気力・体力を整えながら参加して参りたいと思います。一年間ありがとうございました。

草野 園美



アリーナでの体育実習授業

一年間がとても楽しく、健康で通学することができました。年齢的に新しい友人をつくることは、難しいと思っていましたが、年齢の垣根を越え学べたことは、貴重な財産となりました。このような機会をいただけたことに、心から感謝しています。得た知識を活用し、地域のお役にたてればと思っています。

原口 志津子

CC大学の授業では、社会福祉の分野のみならず、幅広く多様なことを学ぶことができ、これから健康で楽しく生きていく秘訣も学べましたこと嬉しく、先生方、講師の方々に感謝申し上げます。

これから、CCクラブの一員となるわけですが、その活動は多岐にわたり、幅広いネットワークがあるようですので、私にも何かできることがあればと思います。

谷村 宏

連携してCC大学を開設してくださっている港区と明治学院大学のおかげで、第9期生として充実した一年を過ごすことができました。今は廃校になった小学校が、高齢者も学び集い活動する拠点として活用されていますが、これからは地域の大学が同じようにその役目を担うことになると思われ、明治学院大学はまさにその輝かしい先駆けです。私たちに素晴らしい学びと集いと、これからの考える時間とを提供してくださいました。Do for Others の気持ちを生かしていきたいと思っています。

菊地 京子

CC大学では、私の専門分野とは異なる社会学や文学、音楽など関心はあるが良く知らないお話が聞け、有意義な機会を持つことが出来たと思います。聞いたお話を理解するため、授業の後、聞いた内容をまとめ、私のホームページに登録しました。インターネットで言葉を調べたりして時間はかかりましたが、何となく理解ができたと感じました。私の興味のある生涯現役の話があると良かったと思います。

平尾 恭一

あつという間の一年でした。無事終了してホッとしました。他地区の方々、年齢・環境の違う方々と知り合いになりたいという第一の目的は叶いました。一般教養・区の行政・宿泊研修がとても面白かったことです。第2の目的「地域貢献として何ができるか」は、今だに具体的に思いつきません。10年以上続けてきた他区の病院でのボランティアを続けていく中で、学習したことが役に立つと思っています。

永井 正子

明治学院大学との出会いは学園紛争の頃、その後の人格形成に大きな影響を受けた企業の入社試験（一次試験）会場としてでした。その校舎で一年間の学生生活を送り、良い思い出が出来ました。

個性豊かな授業、チャペルのオルガン、学食、横浜校舎、施設訪問、宿泊研修、40 数年港区在住のプレゼントと思い、感謝いたします。企業や大学の講師をし、今回は最前列で理想の受講生？になるように努めました。

渡邊 千恵子

「脱抑制」。多くの学びの中の一つである。妙に納得して気に入る、その意味を考えながら使っている。年齢の高くなっている友人達にも伝えて自覚を促し、これも小さな小さなボランティアとほくそ笑んでいる。これは一例である。今後、これらの学びを生かすことが人生の指針でもあり、行動でもあり、大きな課題でもある。

この年になって学べる面白さを夢心地で味わえたことに感謝しております。

渡邊 満子

一年間お世話になりました。仕事中心の生活でしたので地域コミュニティ活動等には全く無関心でした。CC大学に通い同年代の方の活動状況を知り少し興味は持ちました。と言っても今直ぐに何をしようとか、何をしたいという意味はありません。今後、各会合に出席してみて自分に合っている活動があれば参加したいと思います。

小島 寔



自然探索（舞岡公園）

この一年、後期高齢者の仲間入り寸前の年齢で大学生並みの授業が受けられたとは！まさに港区の住人でなければ叶えられない好運でした。

普段は行けない施設見学や箱根の宿泊研修、各種グループ活動や懇親会などを通じて、いろいろ楽しい思い出もできました。これから「高貴巧麗者」として「華麗」を重ねていくうえで何ができ

るのか。微力ながらお役に立てればと思います。

伊豆村 房一

多種多様の講義で一年間はあっという間。

先生方の授業の進め方、内容の選び方に工夫がありとても興味深く取り組みました。新しいことを知る喜びを感じ、また弱者社会の矛盾や問題の深さにも改めて気付かされました。多くの気付き、興味が喚起される反面、一コマの講義では一過性になり易く、連続講義で深くして欲しい気持ちもあります。一年の枠では仕方ないですね。

港区、明治学院大学、新しい友人の皆様に関心から感謝いたします。

A. T.

久しぶりに行政から芸術に至るまで幅広い勉強ができて有意義ではあった。しかし終了した後の充実感が今一つない。これはカリキュラムの内容が広範囲過ぎて一つ一つの講義に深みがなく、また社会生活上あまり必要ないものもあるからだと思う。今の講義内容では費用負担が大き過ぎ、見直す必要がある。貴重な財政資金の無駄遣いのような気もするので是非見直してもらいたい。

田澤 奉興

CC大学に、成年後見制度に関する講座が用意されていたのは私にとって幸運でした。というのは、社会貢献型後見人として4月から後見活動を開始したからです。後見類型に該当すると後見人には代理権が与えられ、財産管理について包括的な権限が認められます。黒田先生のレジメは制度について簡潔にまとめられているので、活動の指針として折に触れ読み返しています。

福島 正純

この年齢になって、再び大学生活を過ごせるとは思っていなかったもので、関係者の方々のご支援に感謝しております。当初、何ができるのか自分に懐疑的でしたが、まずは足を踏み出す事の重要性を認識し始めた自分がある事に驚いています。半歩ずつでも前進できれば幸いと思っています。

CCクラブの先輩諸氏、同期の方々、その他多くの方々のご指導を頂きながら、進みたいと思っています。

K. K.

期待以上にとても充実した大学でした。強いバックボーンが出来たように思います。本当に有難うございました。この港区ですら多くの課題・問題点が有ることも知りました。今後は、まず自分自身の健康の維持・向上に努めます。そして好きな街歩きを継続するとともに、区のプロジェクトにも参画し、困っている高齢者に対しより優しく、より余裕のある支援環境創りに取り組み始めた所です。感謝！

杉山 弘

CC大学では福祉関係を中心として、文学・スポーツ・経済など一般教養科目を含めて、多くの教科を学ばせて頂きました。また港区政の、生（なま）の行政課題も知る事が出来て、大変有意義な一年間であったと認識しています。これからの自分自身の生活を、より豊かにして行くためにも、学んだ事柄を肝に銘じ、併せて港区内と社会全般に還元出来るようになって行ければ良いと、赤心から思っております。これからも関係の皆様方の変わらぬご指導を宜しくお願い申し上げます。

安田 光一



修了式（白金校舎アートホール）

最初はどんなことを学ぶか少し不安でしたが、教授陣の素晴らしい講義により楽しく、講義時間の3時間もあっという間でした。特に地域福祉、高齢化問題などテレビ等で報道されている現実を間近に知ることができ、深く心に残りました。さらに地域行政、福祉、健康、文化芸術に至るまで学べ、本当に有意義でした。これから同僚、先輩方々と連携を取り、地域に貢献していきたいと考えています。

岩佐 徳太郎

期待を持ち4月の入学式。仕事と両立の通学。期待を裏切られる授業、福祉を理解できないまま卒業。地域のリーダー育成なら年齢制限が必要。自己負担が少ない、暇もあり、行くところ探しが皆さんの本音？知り合いができたが地域に還元できるのか？まちの中は空が狭くなった。箱物はコミュニティの破壊？真の豊かさは？一部の人が得をする行政は間違い。格差を作り出す政治、税金の無駄使いを見直してほしい。

田澤 悦子

CC大学では、幅広い分野を、各専門の先生方から学ぶ事が出来たとともに、港区の現状と課題まで正確な知識と情報を得ました事に、明治学院大学関係者に感謝いたしております。

知識の上で得る事が大きかった事と、そして何よりも素晴らしい事は、同じ地域に住む同年代の方々と知り合えた事です。今までの経歴や職業などは関係なく、色々な経験や体験をなさった方々がまさしく、学生仲間として関わりを持つことができたのは素晴らしい事です。また、多くの方にCC大学を受講して欲しいと思います。

今後も大学の存続を港区に要望します。

里村 元彬

畠山記念館、庭園美術館など学外での授業は、とても楽しく教養を深めさせていただきました。

カリキュラムの展開が素晴らしく、毎回、今時の情報を得させていただくことにより、地域との関わりを自分なりに考え深めるチャンスが多々ありました。まずは、今の健康状態を維持しながら地域の方々と共に、気づきをきっかけとした交流を深めていきたいと存じます。尚、今迄、子育て支援「あい・ぽーと」の活動に参加して参りました。引き続き継続していこうと思います。

杉山 波留美

期待に胸ふくらませ明治学院大学の正門をくぐってから一年、一般教養、福祉、体育など、素晴らしい教授陣の講義は毎回新鮮で有意義でした。また、素敵な仲間ともめぐり会え、とても楽しい人生が送れそうです。修了式に井上先生よりは

なむけにいただいた①活動すること②美術館に行くこと③あきらめること、この 3 つの言葉を胸に地域貢献が出来ればと思っております。関係各位の皆様、ありがとうございました。 浦木 芳子

一年間、有意義に学ぶことができました。CC 大学関係者の皆さまに感謝申し上げます。一般教養ではメディアに登場する先生の講義もあり、貴重な体験をしました。また広く浅くでしたが地域の現状を知ることができました。60 歳を過ぎてからの学び、刺激も受けました。地域での同世代の仲間もできました。

今後は一層健康に気をつけて地域活動にもより積極的に参加していきたいと思います。 C. W.

CC 大学 9 期生として学んだ一年間を振り返るとあっという間だったように思います。大学時代以来の各教授の熱のこもった講義や体育実習。そして美術館、港区福祉施設、横浜校舎の見学や箱根の宿泊研修など数々の貴重な経験をさせていただきました。また、各方面で活躍された 9 期生の素敵な方達との会話も、とても勉強になる楽しい時間でした。関係者の皆様に関心より感謝申し上げます。

内山 淳子

退職が目前にせまり、その後は一体何をしようかと考えていたところ、区報で CC 大学の募集を知

りました。これだ！とすぐに応募。この一年は新しい環境で有意義な時間を過ごすことができました。講義も施設見学も新鮮でしたし、何より新しい仲間と出会うことができました。そうでなければ巡り合うこともなかっただろうと思うと不思議な縁を感じます。

港区と明治学院大学に心から感謝しております。

竹林 純江

CC 大学の講義内容は、社会福祉を核として美術・音楽・文学・体育・政治・経済・法律・区政など、多分野に亘るカリキュラムで、受講者を飽きさせず毎回の講義を楽しく受講することが出来ました。

受講生である我々高齢者が、今後如何に健康を維持しつつ、住んでいる地域社会で人との繋がりを作るために、どのような活動が出来るかそして行動していくかを考える動機づけとなりました。また、この CC 大学の受講者同士のコミュニケーションを醸成する事で、今後の活動・行動のキッカケを作る良い機会を得られました。

尚、CC 大学を継続することは、我々高齢者の社会参加への意識改革を進め、より良い高齢化社会作りに極めて有効な手段と考えます。

最後に、明治学院大学・港区役所・社会福祉協議会その他関係各位に感謝申し上げます。

野瀬 太盛



箱根宿泊研修にて

■運営委員会報告

2016度の運営委員、部会員、地域CCクラブ委員は以下の通りになりました。

2016年度 CCクラブ運営委員会

世話人	代 表	斎藤 正精	副 代 表	丸山 保夫
	運 営 委 員		運 営 委 員	運 営 委 員
1 期	① ② 岩村 道子 ③ 江原 一弥	4 期	① ② ③ 高田 眞子	7 期 ① 岩田 澄子 ② 管 美知子 ③ 丸山 保夫
2 期	① ② 野口 美津子 ③ 石井 顕子	5 期	① ② 平井 正人 ③	8 期 ① 石川 啓子 ② 小原 久世 ③ 秋元 宏
3 期	① ② ③ 坂上 宗男	6 期	① 村上 英一郎 ② 藤井 洋子 ③ 忍足 恵一	9 期 ① 伊豆村 房一 ② 谷村 宏 ③ 石賀 幹春
	部 会 長	部 会 員		
企画部会	丸山 保夫⑦	岩村 道子① 野口 美津子②	石高 則子⑥ 山口 明子⑦	伊藤 早苗⑧ 清水 由起子⑨
会報部会	太田 則義⑦	坂上 宗男③ 畔柳 和子④	管 美知子⑦ 石黒 富志子⑧	山田 紀子⑧ 大竹 裕⑤(協)
HP部会	峯崎 恵紀⑦	斎藤 正精⑥ 関根 栄④	榎本 蓉子⑤ 奥村 圭子⑤	小田井 誠⑥ 高田 英夫⑧
地域連携部会	野村 知義⑧	平岩 力④ 藤井 洋子⑥	青木 伸子⑦ 小原 久世⑧	川村 潔⑨ 安藤 洋一②
総務部会	秋元 宏⑧	石川 啓子⑧ 井出 正勝⑧	岩佐 徳太郎⑨	

(協)は協力部員

地 域 C C ク ラ ブ			
芝 C C クラブ	高田 英夫⑧	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	斎藤 正精⑥
高輪地区 C C クラブ	安藤 洋一②	3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地域)	及川 廣子⑥

■活動計画

CCクラブ主催行事 「第1回CCクラブ定期総会・ホームカミングデイ・交流会」のご案内

日時：7月16日(土) 場所：明治学院大学 2301教室他

○第1回CCクラブ定期総会 14:00～15:00(予定) 受付13:30開始

○ホームカミングデイ 15:15～17:00 講演「ぼくのライフワークはアホウドリの再生」
講演者 東邦大学名誉教授 長谷川 博

○交流会 17:30～19:00 会場、パレットゾーン白金

編集後記

今年はCC大学ができて10年目にあたり、12月には記念行事が予定されています。また、7月には初めて総会が開かれ、ここで規約の改正が審議されることになっています。

このようにCCクラブは、いま大きな節目を迎えています。そのような時に会報の作成に携わることになりまして、大きな責任を感じています。

会員の皆様にご協力をいただき、会報部会員の方々とのチームワークで、より良い会報を目指していきたいと思っています。(3期 坂上 宗男)



チャレンジコミュニティ通信 vol.33 2016年6月27日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Tel. 03-5421-5247 Fax. 03-5421-5387

Email ccclub@mguad.meijigakuin.ac.jp

http://www.minato-ccc.jp

会報部会

部会長 太田 則義(7期)

部員 坂上 宗男(3期)

部員 畔柳 和子(4期)

部員 管 美知子(7期)

部員 石黒富志子(8期)

部員 山田 紀子(8期)

協力部員 大竹 裕(5期)

協力部員 三澤 清(6期)

協力部員 及川 廣子(6期)